

醫學博士足立文太郎君著『日本人ノ動脈系統』ニ對スル

授賞審査要旨

足立君ハ明治二十九年ニ『日本人脈管調査第一報告人類學上ノ關係ニツイテ上肢ノ動脈』トイフ論文ヲ發表シ、ソノ緒言ニ述ベテ曰ク、外貌及骨格ガ人類學のニ論ゼラレタコトハ久シキ以前カラノコトデアルニ反シテ、筋、脈管、神經等ニツイテハ學者ノ冷淡ナルニ驚ク。人種ノ異ナルニ從ツテ外貌及骨格ニ差違ガアルナラバ、骨格ニ附着スルトコロノ筋及ビコレニ分布シテキル脈管ヤ神經等ニモ必ズ相違ガナケレバナラス。關節、内臓ニ於テモ同様デアアル。從來世ニアル人體解剖學ハ、歐洲人ヲ標準トシタ解剖學デアアル。各人種ハソレ々特種ノ解剖學ヲ要スル。カ、ル見地カラシテ、足立君ハ本邦ニ於テハ日本人解剖學ヲ編ムベキデアルトイフコトヲ高唱セラレタ。多クノ解剖學者ガ注意シナカツタ此ノ新シイ點ニ着眼シタトイフコトハ、解剖學人類學上特ニ重視スベキ足立君ノ卓見デアアル。コノ見地カラシテ、足立君ハ爾來三十有餘年、日本人解剖學ノ根本的研究ニ從事シ、日本人ト歐洲人トノ間ニハ解剖上人種の差異アルコトヲ發見シ、報告發表シタモノ既ニ拾數回ニ及ビ、ソノ最モ重要ナルモノハ即チ本書デアアル。コレニ使用セラレタ屍體數百、各屍ニ就キ數百件、動脈全部ニ互ツテソノ起始、徑路、分歧、破格等ヲ精査シ、總テコレヲ統計的ニ處理シテアル。

從來歐洲ノ解剖學者ハ、一般ニ有色人種ニ於テ體質上原始的ナル點ガ多イトシテキル。然ルニ足立君ハ比較解剖學及ビ胎生學ヲ根據トシテ、ソノ必ズシモ然ラザル點ノアル事ヲ明ニシ、ソノ結果ハ從來ノ報告ニモ表ハレテキルガ、今回ノ動脈全部ノ統計的調査ニ依ツテ、日本人ノ原始的ナル點ト共ニ歐洲人ノ原始的ナル點ノ多數ヲ新ニ發見指摘シタ。即チ列舉セラレタ破格ノ種類ハ約一一〇件アルガソノ中二〇件ハ兩者ノ間ニ差異ヲ認メ難キヲ以テコレヲ除ケバ、九〇件中日本人ニ多イ破格四〇件、歐洲人ニ多イ破格五〇件デアツテ、兩者ノ間ニ大差ガナイ。或ハ日本人ヨリモ寧ロ歐洲人ニ原始的ナル點ガ多イ傾キガアルトイフ見解ヲ示シテアル。ソノ顯著ナ一ニノ例ヲ舉グレバ、内顎動脈ガ外翼狀筋ノ内側ヲ通過スルモノ、日本人ニ六・三%、歐洲人ニ五七・六%アツテ、ソノ差ハ五一・三%、頰筋神經ノ内側ヲ通過スルモノ、日本人ニ二四・二%、歐洲人ニ六二・二%デ、ソノ差三八・〇%トイフ如キ、又肩胛橫動脈ガ前斜角筋ノ外側ヨリ起ルモノ、日本人ニ一八・九%、歐洲人ニ八・一%アツテソノ差一〇・八%トイフ如キデアル。

尙ホ足立君ハ男性女性、左側右側ノ間ニ夥多ノ新シイ差異ヲ發見シ其外從來學者ノ注意ヲ怠リシ、或ハ全ク未知ノ新事實及ビ解剖書中ノ誤謬ノ多數ヲ列舉シ、解剖學上ノ知識ヲ開發シタコト甚ダ重要ナルモノガアル。

要スルニ足立君ノ業績ハ、日本人體軟部ノ解剖學的人類學的研究ニ依テ人類學ノ新生面ヲ開發シタ

モノト云フベク、學術上ノ功績誠ニ顯著デ、特ニ日本人ガ日本人自ラヲ研究シテ、先人ノ考ヘ及バナカツタ新事實ヲ示シタモノトシテ推獎スベキデアアル。

理學博士小倉伸吉君ノ瀨戸内海ノ潮汐及潮流ニ關スル

研究ニ對スル授賞審査要旨

小倉君ハ海軍水路部ノ職員トシテ、多年日本近海ニ於ケル潮汐潮流ノ調査研究ノ任ニ當リ、其成果ハ斯界ニ多大ノ貢獻ヲ寄與シタ。大正三年ニハ既ニ『日本近海ノ潮汐』ト題セル著述ガアリ、海軍水路部ヨリ出版セラレテ居ル。此書ニ於テハ、潮汐原理トシテ『ハリス』ノ理論ヲ採用シ、之ヲ日本近海ニ應用シテ、實測及ビ調和分析ニヨリ、近海各地ノ潮位及ビ潮時ヲ論ジテアルガ、此ハ我日本近海ニ於ケル潮汐ノ大勢ニ關スル最初ノ著述トモ稱スベキモノデアリ、海洋ニ關係ヲ有スル業務者特ニ航海者ニ取リテ、有益ナ參考資料トナリ、又他面ニハ地球物理學上ニ貴重ナル資料ヲ供給スルモノデア
ル。

次イテ同君ハ步ヲ進トテ研究ノ難關トイハレル瀨戸内海ノ潮流ニ進メ、此爲メニ適切ナル測定方法ヲ考案シ、先ヅ瀨戸内海ノ内外、數十ヶ處ニ觀測點ヲ設ケテ實測ヲ積ミ、其結果ニ理論的考察ヲ加ヘテ、潮候表、潮流表等ヲ製作シ、一面ニ於テハ、此等ノ諸表ヲ海軍水路部ノ名ニ於テ出版シ、ソレガ